

褐毛和種×ホルスタイン種交雑牛(F₁)の一産後の肥育成績

住尾善彦・濱 清輝・猪野敬一郎・木場俊太郎

(熊本県農業研究センター・*熊本県農政畜産課)

Yoshihiko SUMIO, Kiyoteru HAMA, Keiichiro INO and Shuntaro Koba: Fattening Performance of Crossbred Cow(Japanese Brown × Holstein) after first calving

従来、酪農経営から生産されるF₁雌子牛は、雄子牛と同様に肥育素牛として利用されていたが、子牛生産に活用できれば肉用牛増頭の有効な手段になると考えられる。そこで、褐毛和種とホルスタイン種のF₁雌子牛の有効利用を図るため、一産取り肥育試験を実施し、前報¹⁾ではその繁殖性及び哺乳量について報告した。本報では、その後の肥育成績について検討した。

1. 試験方法

供試牛は当所産のF₁雌子牛6頭で(3頭×2区)、A区は分娩時までの1日当たり増体量(DG)が0.7kg程度となるよう育成し、交配を生後14~5ヵ月齢から開始した。B区は、同DGO0.8kg、交配開始を10~11ヵ月齢からとした。

分娩から離乳時(分娩時3ヵ月後)までは、体重維持を目安に飼料を給与した。その後、2~4週間で乾乳し、濃厚飼料飽食により出荷体重650~700kgを目安に肥育した。粗飼料は、A区は自由採食、B区は定量(2kg/日)給与とした。

2. 結果及び考察

増体成績及び飼料摂取量を第1表に示した。初産時まではほぼ設定どおりに発育したが、A区で繁殖障害の発症により初産時月齢が遅れた¹⁾こと等もあり、初産時体重はB区がA区より30kg程度小さかった。離乳時及び肥育開始時体重も同様の傾向にあった。肥育終了時体重は、A区はややばらつきが大きく、B区よりやや大きかった。

肥育日数はB区がA区より70日程度長く、肥育終了時月齢はB区がA区より2.5ヵ月若かった。肥育期間DGは、肥育期間の短いA区がB区よりかなりよかった。

濃厚飼料摂取量は、総量ではB区がA区より多かったが、1日当たりではA区がB区よりやや多かった。乾草摂取量は、総量、1日当たりでもA区が定量給与したB区より多かった。

枝肉成績を第2及び3表に示した。枝肉重量、枝肉歩

留、ロース芯面積、ばら厚ともB区がA区より優れており、皮下脂肪もB区がA区より厚かった。肉質の脂肪の色・質を除く各項目ともB区がA区よりよく、B区では、ほぼ「3」等級のものが生産できた。この要因としては、交配種雄牛の能力、肥育開始の月齢、肥育期間等が挙げられる。

これらのことから、F₁雌子牛を一産取り肥育する場合、B区のように早めに交配開始し、より若齢で肥育開始する方が、生産回転率、肉質等の面から適切であろう。また、交配種雄牛に配慮すれば、「3」等級程度の枝肉の生産は可能であると思われる。

引用文献

- 1) 住尾善彦・濱 清輝・猪野敬一郎・木場俊太郎: 九農研 53,104,1991.

第2表 枝肉成績(1)

区分	枝肉重量	枝肉歩留	ロース芯面積	ばら厚	皮下脂肪	歩留等級
A区	1	382.5	62.9	34.9	5.1	C
	2	455.0	62.2	48.7	5.8	B
	3	394.0	61.3	41.1	5.2	B
平均	410.5	62.1	41.6	5.4	2.1	
±SD	31.8	0.7	5.6	0.3	0.1	
B区	4	404.0	62.2	47.2	5.8	B
	5	418.5	64.0	49.4	5.9	C
	6	426.5	65.6	49.0	6.4	B
平均	416.3	63.9	48.2	6.0	2.7	
±SD	9.3	1.4	0.9	0.3	0.6	

第3表 枝肉成績(2)

区分	脂肪交雑	色沢	縮まり	脂肪の色・質	肉質等級
A区	1	0.7	2.0	4.0	2.0
	2	0.3	2.0	4.0	2.0
	3	0.7	2.0	4.0	2.0
平均	0.6	2.0	2.0	4.0	2.0
±SD	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
B区	4	1.0	3.0	3.0	3.0
	5	1.0	3.0	3.0	4.0
	6	1.0	2.0	2.0	3.0
平均	1.0	2.7	2.7	3.7	2.7
±SD	0.0	0.5	0.5	0.5	0.5

注) 脂肪交雑は評点値で、これ以外は等級値

第1表 増体成績及び飼料摂取量

区分	体 重					D G		乾乳期間	肥育日数	終了時月齢	飼料摂取量				
	生時	初産時	離乳時	開始時	終了時	初産時	肥育期間				濃厚飼料(1日)	乾草(1日)	濃厚飼料(1日)	乾草(1日)	
A区	1	41.0	544.0	471.0	462.0	652.0	0.70	1.84	14.0	103.0	26.9				
	2	46.0	603.0	495.0	507.0	737.0	0.65	1.59	21.0	157.0	37.5	1940.0	12.28	393.0	2.49
	3	38.0	616.0	530.0	538.0	685.0	0.69	1.50	21.0	98.0	35.0	1080.0	10.91	312.8	3.16
平均	41.7	587.7	498.7	502.3	698.0	0.68	1.64	18.7	119.3	33.1	1510.0	11.60	352.9	2.83	
±SD	3.3	31.3	24.2	31.2	43.8	0.02	0.14	3.3	26.7	4.5					
B区	4	30.0	578.0	487.0	461.0	680.0	0.87	1.53	28.0	143.0	28.9	1562.0	10.70	173.2	1.19
	5	34.0	537.0	466.0	452.0	681.0	0.83	0.99	27.0	231.0	31.1	2217.0	9.56	377.9	1.63
	6	35.0	552.0	459.0	466.0	691.0	0.82	1.11	20.0	203.0	31.8	2077.0	10.18	404.7	1.98
平均	33.0	555.7	470.7	459.7	684.0	0.84	1.21	25.0	192.3	30.6	1952.0	10.15	318.6	1.60	
±SD	2.2	16.9	11.9	5.8	5.0	0.02	0.23	3.6	36.7	1.2	281.6	0.47	103.4	0.32	

注) A区及び4号牛は単房飼養, 5号牛及び6号牛は繁殖牛との群飼飼養(飼料は個体管理)